

飯塚教会を訪問しました

3月23日(木)は飯塚教会を訪ねました。満開のミモザの花が私たちを出迎えてくれました。教会はJR新飯塚駅から1キロほど離れた高台にあります。近くの勝盛公園はソメイヨシノがたくさん植えられていて、お花見の名所になっているそうです。

高屋澄夫牧師は奨励の中で、教会標語を「喜びと悲しみを互いに分け合う共同体」と定めた理由について語られました。悲しい現実を寄り添いながらも、十字架の愛を指し示して群れを立て上げようとするパウロの姿に、飯塚教会のいまを重ねておられる様子がよく伝わってきました。



分かち合いの中では、八木山バイパスの無料化によって、福岡都市圏とのアクセスが格段に上がっていることが話題として挙げられました。実際、西南学院中高や福岡女学院中高の生徒さんが、飯塚教会にしばしば来られているとのことでした。出会いの輪がよりいっそう広がることを期待しながら、飯塚教会の丘を下りました。ありがとうございました。



伝道委員会と宣教支援センターの共同企画
教会おしゃまします

連盟全国支援・地域協働プロジェクト バプテスト北九州地方連合 宣教支援センターニュース 20号



発行責任者：山田雄次
発行所：〒805-0015
北九州市八幡東区荒生田2-1-40
Tel&Fax：(093)651-6669
東八幡キリスト教会内
連合宣教支援センター事務局
発行日：2017年4月19日



第1回教会元気プラン合同研修会
第2回連合ソフトボール大会
2016年度 少年少女春の修養会
教会おしゃまします 飯塚教会

写真：第二回連合ソフトボール大会
(3/20 西南女学院中高グラウンド)

教会組織50周年感謝礼拝を終えて

枝光教会牧師 岩崎 一宏(枝光)



枝光教会は、3月5日に「教会組織50周年感謝礼拝」を捧げました。この地に教会を建て守り導いて下さった主イエス・キリストと、その恵みに応えて教会を守り続けて来られた先達たちの信仰に感謝すると共に、これからの50年に向けての教会の使命を自覚する時となりました。枝光教会は、「坂の途中の教会」として、出会うひとりひとりが、キリストの福音によって真の安息をいただける教会となることを目指して歩み出しています。

感謝礼拝の宣教で東八幡教会の奥田知志牧師は、「生ける神のみ言葉に立つ教会は、岩場に立つ教会として自らの安定に落ち着くことなく、み言葉を聞いてそれを行う教会である」と語られました。また、谷本仰連合会長は祝辞において、「礼拝を守り主のみ言葉を聞き続けることによって、そこに道が作られていく。そして道は、人々が双方向に行き交う道であり、教会は時には送り手となり、時には受け手となる必要がある」と語られました。どちらも「坂の途中の教会」として歩み始めた枝光教会のこれからの指針となる貴重なものでした。

当初、感謝礼拝は11月の主日礼拝において教会関係者だけで行う予定でした。しかし、宣教支援センターの齊藤弘司主事より「枝光教会の50年という節目と一緒に喜びたい連合内の教会もたくさんあるはずだ。そして、枝光教会の過去・現在・未来を共有することで励まされ、元気になる教会もあるはずだ」というお勧めをいただき、連合諸教会に開かれた「感謝礼拝」を行うことになったのです。現在の教会の力量でその準備をすることはたいへんでしたが、その結果、100名を超える参加者と共に各個教会の枠を超えてひとつのキリストの体であることの喜びを味わうことができました。

宣教支援センターの働きを通して、連合諸教会が「他者と関わることで元気にされていく」ことを目指していることのひとつの証しとなった「50周年感謝礼拝」でもありました。今年度、枝光教会は、宣教支援センターの「元気プラン」推進教会としていただき本当に良かったと思います。



編集後記

3月5日(日)小倉春ヶ丘教会で金美蘭牧師感謝会が行われました。金美蘭牧師が町内会の組長を務めていた時期があり、近隣住民の方が10名も参加しておられました。ここ数年、教会では北九州市立大学の短期留学生の方が礼拝をささげに来ることによって、異文化交流が生まれています。8年間の伝道牧会のお働きを心から感謝します。連合伝道委員会では無牧師の間、月1回の宣教応援を通して、小倉春ヶ丘教会を支えていくことにしています。



次回予告

巻頭言：山本龍一郎牧師(小倉)
おしゃまします報告：下関教会

3月の予定

- 4月27日(木)教会おしゃまします 下関教会14時
- 29日(土)連合年次総会 (シオン山)10時
- 5月 8日(月)センター常任委員会 (東八幡)16時
- 18日(木)教会おしゃまします 臼杵教会14時
- 28日(日)センター運営委員会 (シオン山)15時半

宣教支援センターHP&Facebook

ニュースレターのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。

HP：<http://bapkitaq.jimdo.com>
パスワード：kitaq2015



第1回教会元気プラン合同研修会

3月19日(日)15時から枝光教会を会場に、第1回教会元気プラン合同研修会を開催しました。枝光教会から10名、防府教会から5名、宣教支援センターから山田雄次運営委員長と齊藤弘司主事の2名が参加しました。合同研修会の目的は、各個教会主義のためになかなか踏み込むことのできない、それぞれの教会形成の在り方についての意見交換をすることでした。

それぞれの発題から、枝光教会は「刹那的な教会」、防府教会は「おせっかいをする教会」というキーワードが浮かび上がってきました。どうしてそのような教会になっているのかについて、たくさんの質問や意見が出されました。キリスト教会に連なるお一人お一人がどういう思いで他者とかわっているのか。イエス・キリストの伴いと救いに押し出されて何を語るのかということについて、深い対話を交わすことができました。

枝光教会は1月の信徒常会で行った教会の自己診断スケール【基礎編】によって、バプテスト性はきわめて高いものの、教会教育が弱みであることが分かりました。地域との関係づくりのための習字教室の取り組みと並行して、教会の弱みを改善する取り組みを始めます。また防府教会は、2016年度下半期をかけて作成した3か年計画を、「げんきの木」という掲示物にまとめました。1年目の実行の年を迎えます。いずれの教会も、次年度の教会形成の課題がはっきりと見えています。

「来年3月に今度は防府教会で合同研修会を開きましょう」という声が、参加した皆さんの中から上がりました。教会元気プランは単年度で終わるものではないということを、改めて教えられた合同研修会でした。



第2回連合ソフトボール大会

教会教育委員会主催の第2回連合ソフトボール大会が3月20日(月)に西南女学院中高のグラウンドにて開催されました。当日の天気予報は雨でしたが、なんとか天候が保たれて無事に開催することが出来ました。今回は8教会に加えて、抱樸からも参加者が与えられて総勢50名の参加者が与えられ、実際にプレーをしたのが30名(3チーム)、応援20名となりました。

「交流のためなので、楽しくプレーしましょう」との声のもと最初は和気あいあいと試合が始まり、大人たちは小さな子どもたちに配慮しながらプレーしていましたが、試合が進むに連れて段々と白熱!! みんなつつい本気になってしまい、最終的には好プレーが連発!! みんな真剣な眼差しで試合をしていました。試合の熱が高まったところで、雨が降り出し、コールドゲームとなり、最後まで試合をすることは出来ませんでした。十二分に老若男女と一緒に楽しんだ時となりました。

このように世代を超えた人々が集まり、楽しめるのは教会の素晴らしさです。また、北九州地方連合という組織があるからこそ、こんなに大勢の人々と交わり楽しむことができている。教会教育委員会はこれからも連合諸教会の人々が出会い、学び、語らい、そして時に楽しむひと時を積極的に提供していきたいと思っています。

このような楽しいひと時が与えられたのは、会場を提供くださった西南女学院の皆様のご厚意があったからこそです。厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。そして、何よりも、連合諸教会から神さまが参加者を与えて下さったことに感謝いたします。(教会教育委員長 本山大輔)



2016年度 少年少女春の修養会

3月30日～4月1日、シオン山教会にて、少年少女会春の修養会を行いました。テーマは、MIT-LEBEN「共に生きる」でした。このテーマは、久山療育園という重症心身障害者施設の設定スローガンです。「重症心身障害者」とは、「重い知的障害と重い肢体不自由が重複した上に、重い疾患も併せもち、医療的なケアと他者の介助なしには生きてゆけない方々」のことです。その久山療育園が生み出されていく一連の運動の中で掲げられたスローガンが、MIT-LEBENです。聖書から与えられたスローガンだそうです。今も、久山の運動の中心テーマとして、大事にされています。今回の修養会では、その久山療育園に行かせていただき、参加者全員で「共に生きる」ということについて考えました。

研修を通して感じたのは、「共に生きる」ことの大変さです。施設を利用されている方々は、一人一人、それぞれ違います。性格も体格も、症状の重さも内容もそれぞれです。職員の方々も、試行錯誤しながら、一人一人に合った関わり方を模索しておられます。それは大変なことでした。

しかし、その大変さは、決して、無駄な大変さではない。むしろ、私たちが生きる上で、避けてはならない大変さだと思いました。研修を通して、私は、人と関わることにきちんと苦勞してきたか。苦勞を避けてきたのではないかと問われました。自分と意見の違う人、性格の合わない人、異性、異年齢、外国人。コミュニケーションに苦勞しそうな人とはなるべく関わらず、意見が合う人とだけ仲良くする。そうすれば、とても楽です。でも、それでいいのかと問われました。

楽ばかりを求めていった果てに、一体どんな世界ができるのでしょうか。関わらない、孤独、孤立…。そんな世界には生きたくないし、生きられません。ならば、やっぱり、苦勞しなきゃいけない。でも、それだけではありません。お話を聞かせていただいた方々、皆、その大変さの中に、大きな喜びがあると仰っていました。ある方は、重症心身障害者の方々と出会って、共に生きる中で、自分が生きる意味を見つけたとおっしゃっていました。生きる意味がわからず、どうやって生きていいか悩み、苦しんでいたけれども、重症心身障害者の方々と出会って、共に生きる中で、自分の役割を明確に見出すことができた。「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。」(マタイ16:25)というみ言葉が響いてきました。

忙しい中にも関わらず、私たちのために時間を割いて、充実した研修を提供してくださった久山療育園の皆様、また、参加者・スタッフを送り出してくださった教会、支えてくださった皆様、そして修養会を導いてくださった主に感謝いたします。

また、今年も、卒業生を送り出しました。少年少女会は卒業ですが、これからは青年として、主にあって、これまで以上に深い交わりができることを期待しています。一人一人の新しい歩みを覚えてお祈りください。残念ながら、新入生・初参加者はいませんでしたが、連合諸教会に集う少年少女たちの出会いの場として、より一層、少年少女会が用いられていくことを願っています。どうぞ、これからも、覚えてお祈りください。修養会参加者：少年少女10名(6教会)、スタッフ6名(顧問 村田悦 大分教会)

